むろあじ類伊豆諸島周辺海域

評価対象種：クサヤモロ（伊豆諸島海域）

令和６年４月

資源の水準と動向「低位・減少」

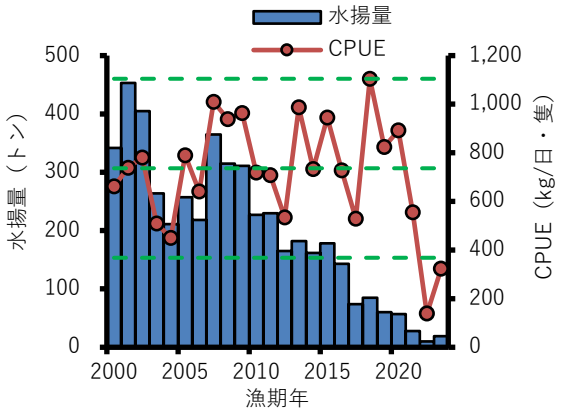

図１ 水揚量と CPUE の推移

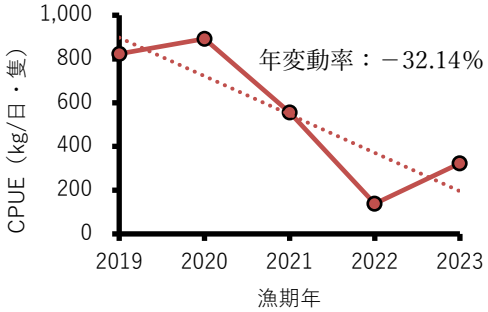

図２　棒受け網漁業による CPUE の年変動率

伊豆諸島海域におけるクサヤモロの水揚量は、2001 年に 453 トンを記録して以降減少を続け、2023 年は 19 トンであった。CPUE（棒受け網漁業１日１隻あたりの水揚量）は 2020 年まで増減を繰り返していたが、それ以降は減少傾向にある（図１）。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2023 年における資源の水準は、資源量指標値とした CPUE が最大値となった 2018 年の 1,105 kg/日・隻の 1/3 未満である 322 kg/日・隻のため「低位」とした（図 1）。

資源の動向は、直近 5 年間の CPUE から算出した年変動率が－32.14 %であり年間５%以上の減少が見られたため「減少」とした（図 2）。

生態学的特性（クサヤモロ）

○分布・回遊：東京の海域では、伊豆諸島から小笠原諸島まで広く分布するが、主に黒潮の影響が強い三宅島から青ヶ島までの沿岸に生息する。[1)][2)]

○年齢・成長：1 歳で尾叉長 20 cm、2 歳で 25 cm、3 歳で 30 cm 前後まで成長し、最高齢は 8 歳が確認されている。[3)]

○成熟・産卵：東シナ海において、産卵期は 4~7 月、最小成熟個体は尾叉長 25 cm の 2 歳魚である。[3)]

○被捕食関係：胃中から仔魚やプランクトン類が確認されている [2)]が、捕食の傾向等、詳細は不明である。

東京都におけるクサヤモロ漁

○漁業：東京都漁業調整規則に基づく許可漁業である棒受け網漁業や定置網により漁獲される。8～12 月に操業する「八丈島周辺海域における棒受け網漁」による漁獲が多いが、これによる水揚量は需要に応じて調整される [2)]。

○漁法：近年は八丈島においては棒受け網、三宅島では定置網で漁獲される。

○管理：棒受け網漁業は、許可の制限措置の中で、許可隻数が制限される。三宅島では、定置網漁業で漁獲される本資源について東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、自主的資源管理（禁漁期間の設定）に取り組んでいる。

東京都

1） 岸田周三. 1974. 東シナ海産ムロアジ属魚類の漁業生物学的研究－II. まき網漁獲物からみた魚種別分布と漁獲量. 西海水研報告, 45: 1-14.
2） 東京都水産試験場. 1984. 組織的調査研究活動推進事業報告書. 東京都水産試験場研究要報, 171: 1–51.
3） Shiraishi, T., H. Tanaka, S. Ohshimo, H. Ishida and N. Morinaga. 2010. Age, growth and Reproduction of two species of scad, *Decapterus macrosoma* and *D. macarellus* in the waters off southern Kyusyu. JARQ, 44: 197–206.